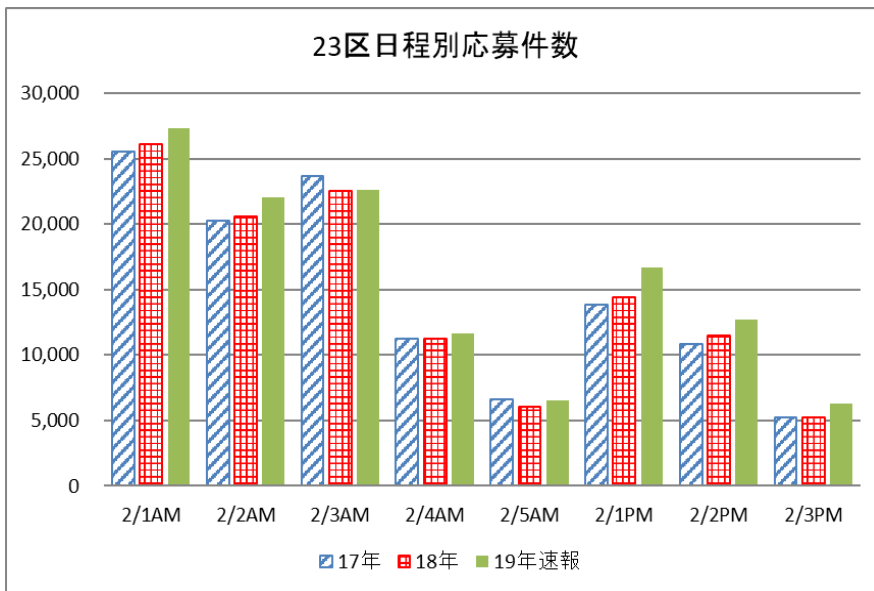


東京23区私国立中入試概況

1. 概況 中学受験志向の強まりと児童数の増加で中学入試は難化傾向

東京23区の公立小6児童数は義務教育学校も含め約60,400名で、昨年より約3,300名増えています。東京23区内の中学受験の応募総数は、私立、国立、公立一貫校の合計で、2月15日現在、1月までの帰国入試を含めて約134,000件です。昨年の最終が約126,000件でしたから大きく増えています。入試結果未公表の学校や3月に二次募集を行う学校もあり、最終的にはこれらの応募者数が上乘せされます。実際の受験者数も約95,600名と、昨年最終より約5,200名増加、合格者数は約36,900名でした。この数字には、コース制



実施校での入り易いコースのスライド合格や、特待入試での一般合格が含まれていない学校もありますから、「入学できる」合格者はもっと多くなりますが、同じ基準で昨年と比較すると約600名しか増えておらず、実受験者数の増加ほど増えていないことから、平均倍率アップによる難化傾向が表れた入試でした。中高一貫教育への期待感の高まりから、首都圏の中学受験志向の上昇の先頭を走っている23区の中学受験ですが、今年は児童数の増加が上乘せされた結果でした。

上のグラフは東京23区内の2月1日以降の中学受験の応募者数を日程別に合計し、一昨年、昨年と比較したものです。今年は速報値で、私立、国立、公立一貫校の合計ですが、都内で実施される地方寮制校の入試は含んでいません。応募総数では2月1日午前が最多、昨年までは次が3日午前で、その次が2日午前でしたが、今年は2日午前の応募者が増加、3日午前とほぼ同じになりました。その2日午前は、昨年より応募者が7%増えていて、5%増えた1日午前ともども、中学受験の拡大を示しています。午前入試に限ると3日、4日、5日は昨年並みの応募総数で、遅い日程まで挑戦する受験生は今年もあまり多くないことがわかります。3日午前は私立中だけでなく国立中や公立一貫校の選抜日ですが、国立中は応募者が少し増えたもの、

公立一貫校はやや減っています。

午後入試は、グラフのように1日午後、2日午後、3日午後とも増えていて、特に1日午後は16%、21日午後は11%も応募総数が増加、中学受験拡大の中心です。遅い日程まで午前入試の受験をあまり考えない代わりに、強行軍になりますが1日午後、2日午後で積極的に受験していくケースが増えています。1日午後は巣鴨、世田谷学園、山脇学園、普連土学園、昭和女子大、2日午後は香蘭の午後入試新・増設が多く受験生を集めました。

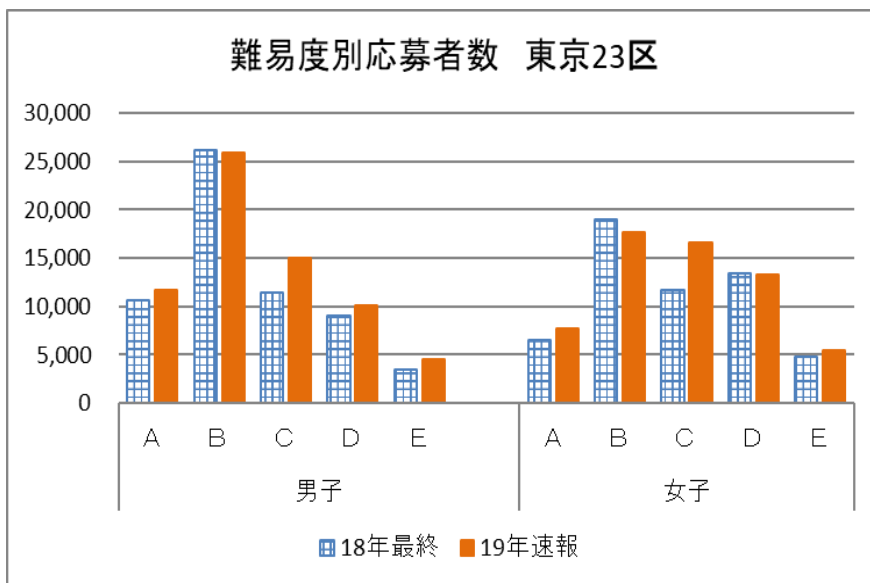
次に、難易度による志望校選択の傾向を見えます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年と今年とで

は異なる場合があります。今年のグルーピングは14ページに一覧の形で掲載しました。

全体的な傾向では、男子は上位校のBグループの応募者がダントツに多く、全体の4割弱です。次に多いのがCグループ、その次が昨年はAグループ、次いでDグループで、Eグループはかなり少ない状態です。全体的な傾向は昨年とかまっています。今年もBグループが少し減って、他のグループはいずれも増えています。中でもCグループが大きく増えています。「大きく」と書くと、「そんなに?」と感じるかもしれませんが、多摩地区や他県のページのグラフとは目盛りが違います。昨年より3,500件以上増えていて、23区の男子の中学受験拡大の中心です。また、最上位のAグループ、比較的入り易いDグループ、入り易いEグループも昨年よりそれぞれ1,000件増えていて、全体的な増加基調の中で、特に中堅校の人気の高まったのが今年の男子の中学入試でした。

一方、女子もBグループが最多ですが、全体に占める割合は男子より低く3割弱になります。昨年より減っていて、Cグループが男子同様大きく増加していますから、その差が縮まってきました。Cグループは昨年より約5,000件増えていて、女子でも中学受験拡大の中心ですが、Aグループも1,000件を超える増加です。Bグループは2,000件を超える減少ですが、昨年ならBグループに応募していたであろう受験生の半分は挑戦志向が強く、今年もAグループに向かい、あとの半分は「身の丈志向」というか、無理しないという方針でCグループに応募したのでしょう。多摩地区や神奈川県、埼玉県では「せめてBグループに…」というニーズが目立っていますが、23区では少し傾向が違ってきます。Dグループはほとんど昨年と変わらない応募総数で、Eグループは少し増えました。Eグループは、地元の公立中よりも面倒見の良い中高一貫校に、というニーズの高まりでしょう。続いて各校の様子を簡単にご紹介します。都立の中高一貫各校と区立九段中等は公立一貫校のページをご覧ください。

☆



2. 男子校

<難関校~中上位校>

まず男子御三家3校から。開成の今年の応募者数は、一昨年、昨年、今年と、ほぼ同じ水準で安定しています。実際の受験者数、合格者数もほぼ同じで、合格最低点は若干下がりましたが、今年も高難度の厳しい入試でした。麻布は、厳密には昨年、応募者が若干減っていましたが、今年は増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並み、合格最低点は昨年とほぼ同じで難度に変化は見られません。実質倍率が少し上がった分、厳しい入試でした。武蔵の応募者数は、一昨年はほぼ前年並み、昨年は減って、今年も少し増えています。今年の出題内容だけでなく、以前よりも入りやすくなってきたこともあって、やや力不足気味でも挑戦志向が高い受験生が増えている影響もあって、昨年は上がった合格最低点が、今年も少し下がっていますが、それでも高難度であることに変わりはありません。

御三家と並ぶ難関校の駒場東邦は、一昨年の応募者数がやや減少、昨年は一昨年並みで、今年もやや増えています。人気が上がってきました。実際の受験者数も少し増えて、合格最低点は若干上がりましたが、難度はあまり変わっていません。国立の筑波大駒場は、一昨年、昨年と応募者が減っていましたが、今年も増加、受験生の挑戦志向が表れてきました。受験者数も増えて実質倍率は上がりましたが、合格最低点は少し下がっています。今年の出題が少し得点しにくかったのでしょう。高難度は変わっていません。

海城は、一昨年は帰国入試の応募者が前年並み、2

月1日の1回はやや減、3日の2回は減りましたが、昨年は帰国入試が増加、1・2回は昨年並みでした。今年は帰国入試、1・2回とも増えていて、人気が上がっています。実際の受験者数も増えていて、帰国入試は科目変更があつて、合格最低点を単純に比較するわけにはいきませんが、ほぼ昨年並みの難度、1・2回は合格最低点が上昇、少し難化したようです。早稲田は一昨年、昨年と2月1日の1回、3日の2回とも応募者が少しずつ増えていましたが、今年は減っています。海城に流れた受験生もいたようです。実際の受験者数も少し減っていて、合格者は昨年とほぼ同様の人数を発表していますが、合格最低点は昨年並みで、受験生が絞られた結果でした。

暁星は一昨年まで隔年現象で応募者が増減していましたが、昨年、今年とほぼ同じです。実際の受験者数は少し減っていますが、合格最低点は昨年並みで、難度に変化はみられませんでした。芝は、昨年は2月1日の1回、4日の2回とも応募者がやや減っていて、昨年は1・2回とも概ね一昨年並みでした。今年は1・2回とも減っています。実際の受験者数も減っていますが、1・2回とも合格者数、合格最低点は昨年とあまり変わっておらず、難度も変わっていません。受験生が絞られた入試結果でした。

城北は昨年、2月1日の1回の応募者が少し増えて、2日・4日の2・3回はやや減っていました。昨年は各回とも少し増加、今年は1回が昨年並み、2回が減って、3回はやや増えています。実際の受験者数は3回も昨年並みでしたが、合格者数は絞り込みました。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化は見られません。巣鴨は昨年2月4日にⅢ期を新設、今年は1日午後に初めての午後入試として算数選抜を新設しました。算数選抜は500名を超える応募者の人気です。1日午前のⅠ期は昨年並みの応募者数でしたが、2日午前のⅡ期と4日午前のⅢ期は少し減って、算数選抜に流れた受験生も見られました。Ⅱ期・Ⅲ期は実質倍率が少し緩和、やや入り易くなったかもしれません。Ⅰ期は昨年並みの難度、算数選抜は単純比較できませんが、少し高めな難度だったようです。本郷は、昨年は2月1日午前の1回の応募者がやや減少、2日午前の2回は一昨年並み、5日午前の3回は減っていましたが、今年は各回次とも大きく増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は1・2回が昨年並み、3回は絞っていて、1回の合格最低点は昨年並みだったものの、2・3回は少し上がって、厳しい入試になって

います。

攻玉社は曜日の関係で国際学級の入試を1日前倒しにしたほか、2月5日の特別選抜を国語と算数の選択から算数のみに変更しました。もともと隔年的な応募者数の変化が見られる学校で、一昨年の応募者数は各回次とも減少、昨年は各回次とも増加、今年は国際学級が昨年並みでしたが、他の回次は順番通り減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格最低点は1回が少し上がり、他の回次は昨年並みでした。1回はやや難化したかもしれませんが、他の回次は昨年並みの難度でしょう。世田谷学園は2月1日午後に初めての午後入試として算数特選を新設しました。一昨年は各回次とも応募者が増加、昨年は1日午前の1次が一昨年並み、2日午前・4日午前の2・3次は減っていましたが、今年は算数特選に400名を超える応募者があつたほか、1・3次は応募者がやや増加、2次は少し減っています。1~3次の実際の受験者数は応募者の増減と同傾向で、合格最低点も昨年とあまり変わっていません。算数選抜は実質倍率が2倍を超えていて少し高難度だったようです。

東京都市大付属は、難化が進んで敬遠傾向が見られ、一昨年は応募者が減少、昨年も各回次合計では若干増えたものの、概ね一昨年並みでしたが、今年は帰国入試が昨年並み、2月1日からの入試はすべて増加して人気に戻ってきました。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は絞って実質倍率は上がっています。合格最低点は各回次とも昨年並みですから、ボーダーライン付近がかなり厳しい選抜になっています。

内部進学率が高い大学附属校では、早大学院は、一昨年、昨年と応募者が増加していましたが、今年は昨年並み、厳密には微減でした。人気が一段落したようです。実際の受験者数も僅かに減っていますが、それで難度が緩むわけではありませんから、今年も高難度の入試でした。立教池袋も附属カラーが強い学校です。一昨年、帰国入試の応募者が増えましたが、昨年、今年あまり変わらず、2月2日の1回、4日の2回は一昨年、昨年とほぼ同じ応募者数でしたが、今年は少し増えています。実際の受験者数も増えていますが合格最低点は1回が少し上がり、2回は逆に下がっています。こうした変化がありますが、補欠を出していることもあり、難度はあまり変わっていないようです。

学習院は隔年現象で応募者の増減が見られた学校で、今年は応募者が減る順番ですが、帰国入試は応募者がやや増加、2月2日の1回は昨年並み、3日の2

回は少し減って、隔年現象が見られたのは2回だけでした。大学附属校人気が高くなっている影響でしょう。実際の受験者数も2回が少し減っていますが、合格最低点は1・2回も昨年並みで、難度に変化は見られませんでした。明大中野の2月2日の1回は応募者の増加が続き、今年はいよいよ1,000名を超えました。4日の2回は一昨年在応募者増加、昨年は一昨年並みだったものの、今年は再び増加しています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで実質倍率は上昇、合格最低点も上がって難化した入試になりました。

<中上位校～中堅までの各校>

芝浦工大附属は2017年度から豊洲の新校舎に移転、高校は共学化しましたが中学は従来通りの男子校です。入試科目も首都圏では珍しい関西型の国算理です。また、昨年から2月6日に第一志望入試を新設、それまでの入試回次で、一定点数以上の不合格者を対象に、事前課題や作文・面接の入試を行っています。一昨年は豊洲移転で人気上がり、各回次の応募者が増えましたが落ち着いてきて、昨年、今年と少しずつ減っています。難度が上がって敬遠された面も見られます。難度面では各回次とも昨年とあまり変わっていないようです。獨協は附属校カラーがほとんど見られません。一昨年は各回次とも応募者が減りましたが、昨年は2月1日の1回が増加、2日と4日の2・3回も前年並みで、今年は1回がやや減ったものの、2・3回は今年も前年並みが続いています。1回は実際の受験者数、合格者数とも少し減っていますが、2・3回も含めて合格最低点は昨年並みで、安定した難度が続いています。日大豊山は附属カラーの強い学校で、昨年まで応募者数が増えましたが、今年は2月3日午後の4回がやや減ったほかは昨年並みでした。実際の受験者数は少し増えていて、合格者は若干絞っていますが、難度が変わるほどではなかったようです。

純粋な進学校では、成城は、一昨年は各回次とも応募が少し減っていましたが、昨年は2月1日の1回がやや減ったものの、3日の2回、5日の3回は一昨年並みで、今年は2回が減っていますが、1・3回は昨年並みでした。実際の受験者数も同傾向ですが、合格者数は1回が昨年並み、2回は増えていて、3回は絞っています。しかし合格最低点は志望順位が高い受験生が多い1回が昨年並みだったものの、2・3回は少し上がって難化しています。2回の応募者の減少は受験生が絞

られたためでしょう。高輪は各回次合計の応募者数が一昨年は前年よりもやや増加、昨年は一昨年並みでしたが、今年は減っていて、2月2日午前のB、4日午前のCの減少が理由です。他校併願受験生の動きが少し変わったようです。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年並みで、合格最低点は1日午前のAと2日午後の算数入試が昨年並みでしたが、Bはやや下がり、Cは下がって少し入り易くなったようです。

佼成学園は入試に特に変更はありませんでした。昨年は各回次とも応募者が少し減っていましたが、今年は昨年並みで安定しています。実際の合格者数は増えていて、対応して合格者数も増やしていますが、合格最低点は2月5日の3回2科が少し下がったものの、他の回次は昨年とほぼ同じです。3回2科も得点分布の関係でしょう。各回次とも難度はあまり変わっていないようです。特選・中高一貫の2コース制の京華は、一昨年は各回次で応募者が減っていましたが、昨年は各回次合計で一昨年並みとなり、回次によって特選コースが増えたり中高一貫コースが増えたりと違いはあるものの、今年は増えて人気を上向いてきました。合格最低点は少し上下に動いている回次もありますが、特選、中高一貫とも難度に変化はなさそうです。

足立学園は、昨年は2月1日午前の一般1回や特奨適性が一昨年並みの応募者数でしたが、他の回次は少しずつ減って減っていました。今年は各回次とも応募者が増えています。実際の受験者数も増えて、対応して合格者数も増えています。合格最低点は適性検査型と2日午後の特奨2回が少し下がっていて、2日午前・3日午前の2・3回やⅢ日午後の特奨4回は上がっていますが、いずれも得点分布の関係で、難度はあまり動いていないと思われます。他の回次は昨年並みでした。聖学院はものづくり思考力入試の日程を2月1日午後に移すなどの変更がありました。一昨年は各回次合計の応募者数が少し減っていて、昨年は一昨年並みでしたが、今年は増えていて人気を上向いていきました。増加の中心は2月1日午前・午後で、ものづくり思考力入試の移動もありますが、志望順位が高い受験生が増えています。合格最低点は各回次の4科が上がっていて、それ以外は昨年並みでした。全体的には昨年並みの難度ですが、高学力の受験生が増えてきたのでしょうか。日本学園は1科目入試の回数を増やしたり、2月4日の入試を6日に動かすなどの変更がありました。今年も小規模な入試で、難度も昨年並みでした。

3. 女子校

<難関校～中上位校>

女子御三家の**桜蔭**は、一昨年は応募者がやや減り、昨年は少し増えました。今年は昨年並みです。合格最低点は未公表ですが難度に変化はなく、高難度の厳しい入試でした。**女子学院**は、一昨年は応募者がやや減りましたが、昨年は大きく増加、今年も昨年ほどはではありませんが増えています。実受験者数も増加、やはり合格最低点は未公表ですが、もともと高水準の難度が、さらに厳しくなっています。御三家のもう1校、**雙葉**は一昨年、昨年と応募者がやや減少しましたが、今年は増加しました。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は昨年とあまり変わっていません。例年並みの難度でしょう。

御三家に続く**豊島岡女子**は、一昨年は各回次とも応募者がやや減少、昨年は2月2日の1回が少し増えて、3日の2回が一昨年並み、4日の3回はやや減っていました。今年は1・2回がほぼ昨年並み、3回は少し減っていますが、2回の実受験者数が増えています。合格者数は3回が増えています、合格最低点は2回がやや下がって、1・3回は昨年並みでした。補欠を出していますから、各回次とも難度はあまり変わっていません。**白百合学園**は、帰国入試を別として一般入試は2月2日午前の1回だけです。一般入試は、一昨年は前年並みの応募者数、昨年は減りましたが、今年は増加、実際の受験者数も増えました。合格者も増えていますが、合格最低点は上昇、難化した入試になりました。帰国入試も応募者がやや増えていて合格最低点は上がっています。

鴎友学園は、一昨年は2月1日午前の応募者がやや増加、3日午前の2回は減っていましたが、昨年は1・2回とも少し増えていて、今年はさらに2回とも増えました。実際の受験者数も増えていますが、特に2回は増加が目立ちます。合格最低点は2回とも昨年よりやや上がった程度で、難度はそれほど変わっていないと考えられますが、実質倍率が上がった分、ボーダーライン付近が厳しくなっています。**学習院女子**は、曜日の関係で帰国入試を1日早めました。帰国入試は昨年並みの応募者数でしたが、2月1日のA、3日のBとも一昨年、昨年に続いて増えて、人気が上がっています。実受験者数も増加、Aは合格最低点が上がって少し難化しています。Bは昨年並みで、補欠を出していることもあって、難度は変わっていないようです。

立教女学院は、一昨年は帰国・一般とも応募者が増

加、昨年はいずれも一昨年並み、今年は帰国がやや減ったものの、一般は増加、実受験者も増えましたが、合格者数は昨年並みで、合格最低点は上昇、難化した入試になりました。**東洋英和**は、例年2月3日のBが日曜日に重なるため(プロテスタント校の一部は、日曜日の入試を避けるので)今年は2日に移しました。一昨年はA・Bとも応募者が少し減って、昨年はAが一昨年並み、Bはやや減少しましたが、今年はA・Bとも再び少し減りました。実際の受験者数も減っていて、Aは昨年並みの合格者数、Bは合格者を増やしています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、A・Bとも少し入り易くなったようです。

頌栄女子学院は曜日の関係で12月の帰国入試の日程を1日早めました。一昨年は帰国の応募者が増え、2月1日の1回と5日の2回は少し減り、昨年は帰国がやや減りましたが、1・2回は応募者が大きく増えました。今年はその反動があったようで1・2回とも応募者が減っています。それでも一昨年よりはまだまだ多い応募者数でした。実際の受験者数も減っていますが、合格最低点は1・2回とも上昇、受験生が絞られて難化した入試でした。帰国は12月・2月とも昨年並みの応募者数でした。**普連土学園**は、2月1日午後算数1科目入試を新設、午後入試を2回にしました。既存の入試回次では、一昨年は1日午前の1次が前年並み、2日午後の2次と4日の3次は減っていて、昨年は各回次とも少し減っていました。今年は1次がやや増加、2・3次は少し減っていますが、実際の受験者数では2・3次も欠席が減って昨年並みです。1次は合格者数を絞ったため合格最低点が上昇、難化した入試でした。2・3次は概ね昨年並みの合格最低点です。新設の算数入試には300名近い応募者があり、実質倍率も2倍近くになりました。合格ラインの得点率は、算数にしては高い結果でした。

カトリックの**光塩女子**は、2月1日の1回に総合型の入試を実施、2月2・4日の2・3回に4科の入試を実施しています。一昨年は1回に応募者が増加、2・3回は前年並み、昨年は1回が一昨年並み、2回は大幅に増加、3回も増えましたが、今年は1・3回が昨年並み、2回は減りました。昨年の増加の反動でしょう。実際の受験者数、合格者数も同じ傾向ですが、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度は特に変わらなかったようです。

大妻は、2月5日に第4回を新設しました。既存の入試回次では、一昨年は各回次とも応募者が少し減っ

ていましたが、昨年は2日午前の2回が大きく増加、帰国と1日の1回も少し増えて、3日午前の3回は減りました。今年は昨年大きく増えた2回の応募者が反動で減ったものの、3回は少し増えて、帰国と1回は昨年並みでした。実際の受験者数や合格者数は帰国が増えたものの、他は同傾向で、合格最低点も各回次とも昨年並みです。新設の4回は実質倍率7倍を超える厳しい入試で、合格最低点も他の回次より高い結果でした。**共立女子は、2月3日午前・午後入試科目を入れ替えました。**一昨年は各回次合計の応募者が減っていましたが、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。**今年は3日午前になった**インタラクティブ入試の応募者数が昨年並みだったものの、帰国も含めて他の回次はすべて増加、実際の受験者数は増えましたが合格者数は増やしておらず、実質倍率はアップ、帰国入試と3日の総合型は合格最低点が上がって難化しています。1日と2日の入試も合格最低点は昨年並みですが、ボーダーライン付近が厳しくなっています。

<中上位校～中堅前後までの各校>

立教系列校の**香蘭**は、この難度の女子校では珍しく2科4科のままで、しかも入試は2月1日だけでしたが、2月2日午後に2科入試を新設、大いに注目されました。一昨年は前年並みの応募者数で、合格最低点は下がっていましたが、昨年は大幅に増えて難化していました。今年は1日午前入試も昨年に続いて応募者が増加、合格者は絞りましたから、さらに難化しています。新設の2日午後は700名を超える応募があり、実質倍率も4倍を超えて、従来の香蘭のイメージを覆す激戦でした。**東京女学館**は、一般学級・国際学級の2コース制で、一昨年は2月1日午後・2日午後の2・3回の応募者が増えていて、昨年は国際学級と2回、2月3日の4回はやや減っていました。今年は3回が減ったものの、他の回次が増えて、合計では昨年並みです。実際の受験者数も昨年並みですが、合格最低点は上下している回次も見られ、2回は少し入り易くなったかもしれません。国際学級も含め、他の回次は実質倍率を勘案すると難度に変化はなさそうです。

富士見は、一昨年は各回次とも応募者数が少し減り、昨年は少しずつ増えていました。今年は2月1日午前のI回が少し減り、2日の2回がその分増えて、3日の3回は昨年並みです。実際の受験者数は少し増えて合格者もその分増やしています。合格最低点は2回が少し下がっていますが、補欠を出していることもあり、

各回次とも難度はあまり変わっていないようです。**江戸川女子**は、一昨年は各回次合計で応募者がやや増加、昨年は新設の午後入試で、合計では若干減でしたが、帰国以外は各回次とも応募者が減っていました。今年は合計では少し増えています。増加の中心は2月1日午前で、志望順位が高い受験生が増えているのでしょう。実際の受験者数も少し増えていますが、合格者数は絞っていて、各回次の合格最低点は昨年並み、安定した難度の入試でした。

山脇学園は2月1日午後に国語か算数の選択の1科目入試を新設、曜日の関係で帰国入試を1日早めました。既存の入試回次では一昨年は2月2日のB、4日のCの応募者が少し減って、昨年は帰国も含めて各回次とも減っていました。今年も帰国とCは減っていますが、新設の午後入試に500名を超える応募がありました。Bは合格者を絞って合格最低点の上昇、難化していて、AとCは昨年並みの合格最低点です。新設の午後入試は国算とも6割の得点率が求められ、単純比較はできませんが、既存の入試回次とあまり難度は変わらなかったようです。

十文字も曜日の関係で帰国入試を1日前倒ししています。各回次合計の応募者数は一昨年は大きく増加、昨年は2月1日午後の2回の減少がやや目立ちましたが、他の回次は一昨年並み、今年は回次によって増減がありますが、合計では少し減っています。実際の受験者数も同じ傾向ですが、難度面では各回次とも昨年とあまり変わっていないようです。**実践女子学園**は昨年グローバル化対応のGSCクラスを廃止、全クラスでグローバル対応の教育に取り組むようになりました。昨年はこの他にも入試を大きく変更、各回次合計の応募者は大きく増えました。今年は2月4日の思考・表現入試を5回2科基礎に変更しました。昨年大きく増えた反動で、今年は各回次とも応募者が減少、実際の受験者数、合格者数も減っていますが、難度面は各回次ともあまり変わっていないようです。

大妻中野は昨年コアコースの募集を停止したため、アドバンスト、グローバルリーダーズの2コース制です。今年は新思考力入試を2月4日に、算数1科入試を2月1日午後に移すなどの変更がありました。昨年は入り易かったコアコースの募集を停止したため受験生に敬遠ムードが起きて、各回次合計の応募者数は減りましたが、今年は増えています。学校が求める難度が受験生に浸透したのでしょうか。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、1日午前入

試は昨年並みの合格最低点でしたが、他の回次は上がっていて、少し難化した入試でした。

品川女子学院は特に入試に変更はありません。昨年は2月1日午後に算数入試を新設、多くの応募がありました。2月1日午前の1回が一昨年並み、2日の2回は応募者がやや減り、4日の3回少し増えていました。今年は算数入試と3回が減少、1・2回は昨年並みの応募者数です。実際の受験者数も同傾向でしたが、2回は合格者が増えていて、他の回次は算数入試も含めて昨年並みの合格者数でした。合格最低点は1回がやや下がっていますが、入り易くなるほどではなく、他の回次も昨年並みで、難度は動いていないようです。

田園調布学園は帰国入試日程を変更しています。一昨年は帰国の応募者がわずかに減ったものの、他の回次は各回とも少し増えていて、昨年は帰国入試を含めて各回とも増加、今年は回次ごとにやや増減はあるものの、合計では昨年並みの応募者数でした。実際の受験者数はやや増えていますが、合格者数は昨年並みで、2月1日の合格最低点は昨年並みですが、2日・4日の2・3回はやや下がっています。少し入り易くなったかどうか、といったところでしょう。

跡見学園はIクラス・Pクラスの2コース制で、今年は2月5日の入試を特待に位置付けました。一昨年は各回次合計の応募者が大きく減りましたが、活発に入試の変更で昨年、今年と応募者が増えていて、実際の受験者数も増えていきます。合格者も増えていますが、2月1日午前のI回は合格最低点が上昇、少し難化しています。他の回次は思考力入試のような比較しにくいものや、特待認定の変更などがあって、判断は難しいのですが、一般合格の難度はあまり変わっていないようです。**三輪田学園**は、帰国入試を11月に別途実施しました。昨年は2月1日午後に入試を新設。この入試に多くの応募者があったほか、1日午前の1回が一昨年並みだったものの、2・3日午前の2・3回も応募者が増えていました。今年は人気が一段落したようで各回次とも応募者が減っています。実際の受験者数も同傾向ですが、合格者は少し増えていて、合格最低点は1・2回が下がり、少し入り易くなったようです。午後入試と3回は昨年並みの合格最低点でした。

恵泉女学園は、一昨年は帰国入試以外の応募者が少しずつ増えていて、昨年は2月2日午前の1回が減少、1日午後のS1回、3日午後のS2回は昨年並みでした。今年はS2回がやや増えましたが、それ以外は昨年並みです。実際の受験者数は少し減っていて、合格

最低点はS1回が下がって少し入り易くなったようですが、Aは上がり、やや難化したかもしれません。S2回は昨年並みでした。**女子聖学院**は思考力入試のAサーティブ入試を2月2日午前に新設したほか、日本語表現力2回を取りやめるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年が増えたものの、昨年、今年と少しずつ減っています。実際の受験者数、合格者数も同傾向ですが、合格最低点は昨年並みで、難度は特に変化していません。**玉川聖学院**はプロテスタント校で、日曜日を避けて2月3日の入試を4日に変更しました。各回次合計の応募者数は隔年で増減が続いていて、今年は順番通り少し減っています。実際の受験者数は昨年並み、合格者数は少し減っています。一部しか合格最低点が公表されていませんが、難度面は昨年とあまり変わっていないようです。

附属カラーが強い**日大豊山女子**は思考力入試の新設などで一昨年は各回次合計の応募者が増加、昨年はやや減りましたが、今年は概ね昨年並みの応募者数です。実際の受験者数、合格者数、合格最低点も昨年とあまり変わらない安定した入試でした。**昭和女子大附属**は、初めての午後入試として2月1日午後に適性検査型のT入試を新設したほか、既存の入試でも英語選択を実施しました。既存の入試回次では、一昨年は各回次合計で応募者減、昨年は一昨年並みで、今年は増加に転じました。T入試の新設だけでなく、人気そのものが上向いてきています。合格最低点も概ね昨年並みで、T入試も他の回次とあまり難度は変わらなかったようです。

独特な存在の**女子美大付属**は、昨年、2月2日午後に2回自己表現型入試を新設、各回次合計の応募者数は大きく増えました。今年は特に入試に変更はありませんが、各回次とも応募者が増えて人気が上がっています。1日午前のI回の4科の合格最低点が少し上がっていますが、補欠を出していることもあり、他の回次も昨年並みの合格最低点ですから、難度はあまり変わっていないようです。カトリックの**目黒星美**は、一昨年、昨年と各回次合計の応募者が少しずつ減っていて、今年も減っていますが、実際の受験者数は昨年並みでした。あらかじめ遅い日程まで出願しておく受験生が減って、人気は維持しています。合格者数も昨年並みですが、合格最低点は上下しています。不合格者が少ないため、得点分布の影響でしょう。各回次の難度はあまり変わっていないようです。

トキワ松は2月1日午後に英語コミュニケーション

入試を新設しました。各回次合計の応募者数は一昨年から増加、昨年も小幅ながら増えていましたが、今年は減っています。しかし、実際の受験者数は昨年並みで、遅い日程を中心に欠席者が減っています。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化は見られません。**文京学院大女子**は昨年新設したコース別思考力チャレンジ入試の回数を増やしたり、英語インタラクティブ入試を新設しました。一昨年は各回次合計の応募者が少し減りましたが、昨年に続いて今年も少し増えていますが、今年の実際の受験者数、合格者数は昨年並みでした。合格最低点は各回次とも昨年とあまり変わらず、安定した難度の入試でした。

和洋九段は、グローバルコースと本科コースの2コース制です。今年は2科+英語の入試を英語のみとしたり、いったん取りやめた適性検査型を2月1日午後に再開、2日午前にPBL(課題取り組み型)入試を新設するなどの変更がありました。昨年、各回次合計の応募者数が大きく減りましたが、今年も小幅ですが減っています。ただ、実際の受験者数は減っておらず、合格者数は少し減っていて、難度を維持した入試になったようです。**麴町学園女子**は、アクティブイングリッシュ入試を増設するなどの入試の変更がありました。一昨年、昨年と各回次合計の応募者が減っていましたが、今年は増加、人気は上向きました。実際の受験者数、合格者も増えていますが、不合格者が少なく、各回次とも難度はあまり変わっていないようです。**東京家政大附属**はEクラスとiクラスの2コース制で、今年は2月1日午後入試を特奨入試に位置付けています。各回議の応募者数は一昨年が一昨年並み、昨年はやや減って、今年も減っています。実際の受験者数、合格者数も同傾向です。難度面ではあまり変化がなかったようです。

京華女子の各回次合計の応募者数は、一昨年はやや減っていましたが、昨年、今年とほぼ前年並みが続いています。今年は2月1日午前が少し増えて、4日は減っていますから、志望順位の高い受験生が増えているのでしょう。受験者が少ない回次を中心に一部の合格最低点にバラつきが見られますが、難度は昨年とあまり変わりません。**校成学園女子**は2月2日午前にグローバル入試、PISA型、4科入試を新設するなどの変更がありました。近年は隔年現象で各回次合計の応募者数が増減していて、今年も順番通り減っています。ただ、実際の受験者数、合格者数は昨年並みで、今年についてはあらかじめ多くの回に出願しておく応募者

が減ったこととなります。不合格者があまり多くないため、合格最低点は上下している回次も見られますが、難度は例年とあまり変わっていないでしょう。

東京女子学園は2月10日に適性検査型入試を新設しました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と減っていて、小規模な入試になりましたが、今年も昨年並みです。実際の受験者数、合格者数は少し減っていて、難度は昨年並みでしょう。**中村**は、帰国入試を別枠で新設したほか、2月1日午前の2科4科入試を科目選択の2科に変更したり、2月2日午前に1科選択入試を新設、適性検査型入試は両国型と白鷗型とする、5日の入試を特待入試に変更するなど、大きな変更がありました。応募者の減少が続いていて、昨年は小規模な入試になりましたが、今年も増加、小規模を脱しています。実際の受験者数も増えていますが合格最低点はあまり変わっておらず、難度は昨年並みでしょう。

聖心女子は中学での募集を帰国生のみとしていることもあって、今年も小規模な入試でした。**富士見丘**はICT思考力入試を2月2日午後から午前に動かし、2科や科目選択、英語入試を2日午後に新設するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は増えてきましたが、小規模な入試です。神田女学園も2月3日午後に科目選択や新思考力の入試を新設、合計の応募者が大きく増えて、**星美学園**と**国本女子**も応募者の増加が目立ちましたが、いずれも小規模な入試でした。

聖ドミニコ学園はインターナショナルコースを新設して在来のコースをアカデミックコースとしたコース制を実施、**北豊島**は2月1日の適性検査型や英語入試を午後に移し、**川村**は適性検査型や自己表現入試を新設、**成女**は得意科目型の入試を新設、**瀧野川女子学園**も2月2日以降のグローバル入試を廃止、**東京女子学院**は英語入試の日程を変更、**淑徳SC**は2月4日の特選入試を3日に変更、**東京家政学院**はプレゼン入試や2科選択入試を新設などの変化がありましたが、入試に変更がなかった**愛国**も含めて、各校とも今年も小規模な入試でした。**小野学園女子**も、2月4日の入試の廃止などがありますが、今年も小規模です。なお、同校は2020年度から校名を「品川翔英」に変更して共学化する予定です。

4. 男女校

<難関校～中上位校>

国立の筑波大附属は、一昨年、昨年に続いて今年も男女とも応募者が増加、人気が上がっています。特に

今年男子の欠席者が減りました。男女とも実質倍率は上昇、合格ラインの得点率も少し上がって、難化した入試になりました。学芸大世田谷は、一昨年が男女とも応募者増加、昨年は男子が一昨年並み、女子は増加、今年も女子は増えて、男子も小幅ながら増加しています。実受験者数も増えていますが、合格者は増やしておらず、補欠を出したものの、男女とも少し難化したようです。学芸大竹早は、一昨年が男女とも応募者減、昨年は一昨年並みで、今年男子が減少、女子は増えています。しかし、竹早だけでなく世田谷も、ですが今年も欠席率が高く、2月1日・2日に私立に合格した併願受験生が多く見られました。補欠を出していますが、男子は少し入り易くなったかもしれません。女子もあまり難化はしていないようです。お茶の水女子大附属は共学ですが、男子よりも女子の受験生が大多数です。一昨年は応募者数が男女とも前年並み、昨年は男子が若干減って女子が大きく増えました。今年はその反動で女子が減っています。男子は昨年並みでした。実際の受験者数は、欠席が減ったことから女子はあまり減らず合格者を絞ったため、やや難化したかどうか、男子は昨年並みの難度でしょう。

双子の研究教育で知られる東大附属は、昨年は推薦・一般ともに男子が一昨年並みの応募者数、女子は増えていましたが、今年逆に男子が推薦・一般とも増加、女子もやや増えています。人気が上がっていますが、特殊な性格もあって、難度はあまり変化していないようです。学芸大国際は、一昨年は応募者が増加していましたが、昨年は減って、今年は英語中心のA方式、国内生向けのB方式ともに増えていて、隔年現象が見られます。国際バカロレアの認定校で、注目度が高まっている面も人気につながっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、少し難化した入試でした。

私立では、慶應中等部の応募者数は、女子が一昨年、昨年と増加、今年は厳密には増えていますが、概ね昨年並み、男子は一昨年少し減りましたが、昨年は大きく増えて、今年は若干減っていますが、こちらも昨年並みでしょう。実際の受験者数も昨年並みで、1次合格者に2次を行う2段階選抜ですから難度も昨年とあまり変わらない高難度でした。渋谷教育渋谷は、一昨年は2月1日の1回が男女ともほぼ前年並みの応募者数、2・5日の2・3回は少し減っていて、昨年も3回は増えたものの、他の各回次は一昨年並みでしたが、今年1・2回の女子が少し増えて、帰国・3回と男子

の各回次は昨年並みの応募者数でした。実際の受験者数は少し増えていて、合格最低点は概ね昨年並みでなんと背に変化がなかったようですが、3回の男子は少し上がっています。

青山学院は、一昨年は女子の応募者が増加、男子は前年と同数でしたが、昨年、今年と男女ともに増加、人気が上がっています。実際の受験者数も増加、合格者数は男子が少し増えましたが女子は昨年並みで実質倍率は上昇、合格最低点も上がって、難化した厳しい入試になっています。広尾学園は医進サイエンス、インターナショナルAG、同SG、本科のコース分けを行っていて、ハイレベルの帰国生が多い学校です。一昨年は各回次合計の応募者が増加、昨年、今年前年並み、厳密には微減です。回次ごとでは2月1日午前の男子の減少が目立ちます。難化して敬遠傾向が出ているのかもしれませんが。実際の受験者数もやや減って、合格者数は少し増えていますが、受験生の学力層が一般的に上がっていて、各回次とも難度に変化は見られませんでした。

国学院久我山は男女別学です。各回次合計の応募者数は一昨年が小幅な減少、昨年は小幅な増加でしたが、今年は減っています。隔年的な変化ですが、今年は一昨年より減少幅が大きくなっています。応募者が増えている回次もありますが、STは2月1日午後・2日午後の1・2回の男子と1回の女子、一般は2日午前の2回男子が目立ちます。併願受験生の動きが少し変わったのかもしれませんが。実際の受験者数、合格者数も減っていて、ST1回は合格最低点が下がっています。少し入り易くなったかもしれません。他の回次は昨年並みでした。

東京農大第一の応募者数は、一昨年は2月2日午後の2回が前年並みで他の回次は少しずつ増加、昨年は2月1日午後の男子が前年並みだったほかは各回次男女とも増加していましたが、今年は反動で各回次男女とも減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格者数はあまり減らしておらず、合格最低点は各回次とも少し下がり、入り易くなったようです。淑徳は東大セレクトとスーパー特進の2コース募集です。今年2月3日午後の東大セレクト入試と2日午後のスーパー特進入試を入れ替えました。昨年、入試を1回減らしたことから各回次合計の応募者数が減りましたが、今年は微増で、1日午前のスーパー特進1回が増えています。昨年は東大セレクトが増えているから、隔年的な人気の変化でしょう。実際の受験

者数は増えていて、合格者数は昨年並みですが、何回目かでは両コースともあまり変わっていないようです。

東京都市大等々力は入り易いコースだった特進の募集を停止、S特選と特選の募集とし、2月4日に英語入試を新設しています。入り易いコースの募集を停止すると応募者が減るケースが多いのですが、今年は各回次とも応募者が増えています。特進の募集を停止したことがさらに受験生の期待感を高めたようです。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は絞っていて、合格最低点は志望順位が高い受験生が多い2月1日午前が大きく上昇、特進募集停止の影響がもろに出ています。他の回次も合格ラインの底上げが行われた入試でした。**開智日本橋学園**は、2015年に共学化した学校で、高い人気が続いています。今年は入り易いコースだったACの募集を停止し、GLC、DLC、LCの3コース制になりました。入り易いコースの募集を停止すると応募者は減るケースが多いのですが、前出の東京都市大等々力と同じく今年も増加、各回次合計では3,000名を超えました。実際の受験者数も5割増しですが、合格者数は若干減らしていますから、入試が厳しくならないはずがなく、コース別の合格最低点は2月1日の午後のように上がっている回次だけでなく昨年並みや、やや下がった回次も見られますが、ACがなくなった分、底上げされた入試でした。

三田国際学園はインターと本科の2コース制でしたが、今年はメディカルサイエンステクノロジー(以下MST)クラスを新設、3コース制に移行し、2月3日午後をMST専用の算理2科目入試としました。また、1日午後の本科は算数のみとしています。2015年度に女子校の戸坂が校名変更、共学化して大人気になった学校で、一昨年まで応募者が増え続けていましたが、難化が進んで昨年は各回次合計の応募者が少し減りました。今年は3日午後がMSTの高難度入試になったため、3日午後の応募者が減ったほか、本科入試の各回次も減っていて、合計ではかなり減っています。人気が一段落したというよりも、急速な難化が続いたため、あきらめた受験生が増えたのでしょうか。本科の合格最低点は1日午後が算数入試に変更したため、単純比較はできませんが、他の回は概ね昨年並みで、算数入試も難度面はあまり変わっていないようです。MSTは低い合格最低点ですが、出題も難しかったようで、1ランク上の難度でしょう。インターの合格最低点は各回次とも昨年とあまり変わっていません。

<中上位校~中堅までの各校>

まず大きな話題になった**目黒日大**から。日出は日本大学の準付属校になり、校名を「目黒日本大学」に改称します。準付属校は、日大豊山などの正付属校や、日大第一などの特別付属校とは異なって、土浦日大などと同様の扱いですが、内部進学にあたっては条件には大きな差はありません。入試の設定では12月に帰国入試を新設、2月1日午後に特待の算数入試を新設していますが、それ以外はあまり大きな変更はありません。日大の準付属校となった期待感から、各回次とも応募者数、実際の受験者数は昨年の5倍近い人数に増加、合格者も増えていますが、小規模であり不合格が出なかった昨年までとは全く別の入試になりました。当然、難化しています。

他校は比較的的内部進学率が高い大学系の学校から見ていきます。**成城学園**は帰国入試を1月に移しました。応募者数は、一昨年は2月1日の1回、3日の2回とも男子が減少、女子は小幅ながら増加、昨年は1・2回とも男子がやや増加、2回の女子は減りましたが、今年は男女とも大人気、1月の帰国入試も含めて実際の受験者数は5割増、合格者数は昨年並みですから、実質倍率は上がって激戦になりました。難度も上がっています。日大系列校の中では比較的進学校カラーが強い**日大第二**は、一昨年は新校舎効果もあって各回次男女とも応募者が増加、昨年は2月1日の1回、3日の2回とも男子がやや増えて女子は一昨年並みでした。今年は1・2回男女とも少し減っていて、新校舎効果も落ち着いてきたようです。実際の受験者数、合格者数も同傾向ですが、男子は1・2回とも合格最低点が少し上がって、やや難化したようです。女子は昨年並みでした。

日大第一は日大第二より付属カラーが強い学校です。一昨年は各科次合計の応募者数が概ね前年並みでしたが、男子が少し減り、その分女子が増えていました。昨年は逆に各回次とも男子が増え、女子は2月3日・5日の2科入試が少し減っていました。今年は1・2日の4科入試の女子がやや減っていますが、2科入試は増加、男子は4回の入試すべてで応募者が増えて人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は逆に絞っていて、特に4科1回は1日午前という、志望順位が高い受験生が多い入試で合格最低点が上がっていて、少し難化しています。他の回次は昨年並みでした。**東海大高輪台**は、一昨年、各回とも応募者が少し減っていて、昨年は2月3日午前の2回の女

子が大きく減っていました。今年は1日午前のI回の女子が昨年並みだったものの、他の回次と、男子は各回次とも増加しました。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は絞っていて、合格最低点は1回が昨年並み、2回は少し下がりましたが、3回は大きく上がり、難度も目立って上がっています。

次に付属ではない学校や付属カラーの薄い学校を見ていきます。**青稜**は、一昨年は2月5日の入試を廃止した影響で敬遠ムードが出て、各回次合計の応募者が少し減っていて、昨年は2月1日午前、2日午前の応募者が増加、1日午後、2日午後はやや減っていましたが、今年は各回次男女とも大きく増えました。人気が上がっています。実際の受験者数もかなり増えていますが、合格者数は絞り込んでいて、合格最低点は2日午後の4回が少し上がってやや難化しています。他の回次は昨年並みですが、実質倍率が上がった分、ボーダーライン付近が厳しい入試になったようです。**東洋大京北**は、一昨年2月4日午前に実施した哲学入試を1日午前に移しましたが、今年は再び4日午前に戻しています。各回次合計の応募者数は、一昨年からやや増加、昨年は一昨年並みでしたが、今年は全回次で応募者が大きく増加しました。実際の受験者数は昨年の2倍なのに対して合格者数は絞り込み、全回次とも合格最低点は上昇、難化した厳しい入試になりました。この資料集の読者の中には、以前の京北中学校のイメージを持っている方もいると思いますが、まったく変わった存在になっています。

順天は、一昨年は男子を中心に応募者が減っていましたが、昨年は、各回次合計の応募者数が増えて、特に男子の増加が目立ちました。今年は各回次とも減っています。隔年現象的な変化になっています。実際の受験者数も減って合格者は増やしていますが、合格最低点は2月1日午後の1回Bが上がってやや難化、他の回次も昨年並みで、難度に変化は見られません。

グローバル対応の教育で知られる男女別学の**かえつ有明**は、今年は帰国入試の回数を削減しました。各回次合計の応募者数は一昨年から前年並み、昨年は増えましたが、今年は減って一昨年並みに戻っています。昨年は各回次とも厳しい入試で、中には実質倍率40倍以上も見られましたから、少し敬遠されたのかもしれませんが。実際の受験者数、合格者数も増えていて、遅い日程の入試は少し入り易くなったようですが、早い日程の難度はあまり変わっていないようです。

宝仙学園理数インターは自己アピール型やアクテ

ィブラーニング型の入試が多く、今年は2月1日午後の教科の入試を、総合色を強めた新4科入試に切り替えたほか、全国大会レベルの児童を対象とするAAA(トリプルA)入試を新設しました。各回次合計の応募者数は一昨年から大きく増加、昨年も増えていましたが今年は減って、一昨年並みに戻っています。ただ、実際の受験者数はあまり減っておらず、あらかじめ多くの回次に出願する受験生が減った面が強く、人気下がったわけではありません。合格者数は少し増えていますが、各回次の難度面はあまり変わっていないようです。

駒込は昨年、スーパーアドバンスとアドバンスに分かれていたコース制を、国際先進と本科(AGS)に改編しました。今年は2月1日午前に駒込スタイル(思考+数的)では適性検査型入試を新設、2日午後自己表現入試やSTEM入試を新設するなどの変更がありました。STEMはScience、Technology、Engineering、Mathematicsの頭文字をとったもので、アメリカなどで積極的に進められている次世代型の教育内容で、具体的にはプログラミングなどを含む内容です。各回次合計の応募者数は一昨年から増加、昨年から少し増加、今年は再び増加して人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、合格者の増加率が高く、全体的な実質倍率は緩和しています。ただ、難度面は各回次ともあまり変わっていないようで、同校受験者の学力層が上がったための倍率緩和でしょう。併願受験生が多く、合格ラインが倍率よりも基準点で決まる入試で、よく見られる現象です。

文教大付属は一昨年、各回次合計の応募者数が少し減っていましたが、昨年からは適性検査型のみらい創造入試を新設したこともあってやや増加、今年は増えています。ただ、実際の受験者数はやや減っていて、合格者数は昨年並みでした。合格最低点は2月4日の5回が上がっていて、少し難化しています。他の回次も4科は動きがありますが、2科は昨年並みで難度はあまり変わっていません。**安田学園**は、先進特待と総合(一般)の2コース制です。一昨年は各回合計の応募者数が前年並みでしたが、昨年は先進入試を増設、多くの応募者があり、他の各回次も男子の応募者が増えています。今年は回次、男女で少し増減が見られますが、各回次合計ではやや増加しています。実際の合格者数は昨年並み、合格者数は増やしていて、2月1日午前・2日午前の総合入試は昨年並みの合格最低点ですが、先進入試や先進公立一貫入試は合格最低点が上下して

いる回次が見られます。先進入試は合格者が少ないことから、得点分布の影響でしょう。先進公立一貫入試は出題の影響だと考えられ、どちらも難度はあまり変わっていないようです。

淑徳巣鴨は2月1日午後の入試を4科または2科+英語選択から2科4科選択に変更、曜日の関係で帰国入試も1日早めています。一昨年は各回次合計の応募者数が増加、昨年はその反動から、各回とも応募者が減りましたが、今年は全回次で男女とも増加しています。隔年的な変化ですが、女子の増加が目立っています。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、合格最低点は多くの回次で少し下がっていて、難度面では少し入り易くなっているのかもしれませんが。**多摩大目黒**は特待特進と進学の2コース制です。一昨年、昨年、今年と各回次合計の応募者数が増えていて人気が上がっています。増加の中心は昨年同様の特待特進入試で、実際の受験者数も増えていますが、特進特進入試は合格者を絞り込んでいて、少し難化したようです。進学入試も実質倍率は上がっていて、やや難化しているのかもしれません。

立正大立正は、2月4日だった特待入試を2日に移行、2日だけだった英語選択入試を1日午前午後にも実施しました。各回次合計の応募者数は隔年的な増減が見られ、一昨年が増加、昨年は減少していて、今年は順番通り増加しています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は少ししか増えていません。合格最低点は2月1日午前午後、2日は昨年並みですが、他の日程は合格者数が少ない影響で上下しています。難度としてはあまり変わっていないようです。昨年女子校から共学化した**八雲学園**は、今年は2月1日午後2回と5日の未来発見入試の応募者が増えていて、他の回次は昨年並みです。応募者数が昨年並みの回次は男子が増え、女子が減っていますが、応募者が増えた回次でも女子の増加は小幅で、男子が応募者増加の中心です。共学校としての認知度が男子受験生に上がっていますが、同時に女子校志向の女子受験生が離れているからでしょう。実際の受験者数は少し減っていて、男子は増えていますが、女子の減少が目立ちます。共学校志向の女子受験生は他校併願前提が多いのかもしれませんが。合格者数は昨年より増えていますが合格最低点は未来発見入試が昨年同様、他の回次は小幅ですが上がっていて、やや難化しているようです。同校受験生の学力水準が少し底上げされたのかもしれませんが。

文化学園大杉並は日本とカナダ両方の高校卒業資格を取得できる「ダブルディプロマコース」が設置されている学校で、同校も昨年、女子校から共学化しました。昨年、共学化で各回次合計の応募者数が大きく増えましたが、今年も増えています。回次によってやや傾向に違いはありますが、男女別では、まだ男子は女子よりも少ない応募者数ですが大きく増えていて増加の中心です。女子は昨年並みの応募者数でした。男子受験生の認知度が上がっていること、女子校志向の女子受験生が離れて、共学校志向の受験生が増えていることは八雲学園と同じです。ただ、実際の受験者数は男子が増えたものの女子はその分減っていて、他校併願前提の受験生の割合が高くなっているのかもしれませんが。合格者数は昨年並みで、各回次の難度はあまり変わっていないようです。

城西大城西は曜日の関係で帰国入試の日程を変更しました。一昨年は各回次合計の応募者数が少し減っていましたが、昨年は一昨年並み、厳密には微増で、今年も少し増えています。増加の中心は2月1日午前と7日午前入試で、1日午前は志望順位が高い受験生が多くなりますから、人気を上向いているでしょう。合格最低点は少し上下している回次も見られますが、不合格者があまり多くないので、難度はあまり変わっていません。**郁文館**は曜日の関係で帰国入試と特別編成入試の日程を1日前倒しにしました。昨年まで、各回次合計の応募者の増加が続いていましたが、本稿執筆時点で特別編成入試はまだ終わっていませんが、今年はやや減っています。2月1日午前の適性検査型、1日午後、2日午後が減っていて、他校併願の受験生が少し減ったようです。実際の受験者数、合格者数も同傾向ですが、難度は各回次ともあまり変わっていないようです。

東京成徳大は、一昨年は各回次の応募者数が少し減っていて、昨年は回次によって少し増減が見られますが、各回次合計では一昨年並み、今年は2月1日午前・午後に応募者が減って、各回次合計でも少し減っています。実際の受験者数、合格者数も減っていますが、合格最低点は2月3日の4回が上昇、他の回次も概ね昨年並みで、難度を維持した入試でした。**帝京大帝京**は、各回次合計の応募者数は一昨年がやや増加、昨年は一昨年並みで、今年は再び少し増えています。実際の受験者数、合格者数も同傾向で、合格最低点はやや上下している回次も見られますが、もともと不合格者数が少ないこともあって、各回次とも難度面ではあま

り変化はなかったようです。

桜丘は2月2日午後に英語選択を追加しました。一昨年は各回次合計の応募者がやや減っていましたが、昨年は増加、今年も各回次とも増えていて、人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、合格最低点は昨年と変わっておらず、難度に変化は見られません。**目白研心**は2月1日午後に適性検査型入試を新設、他の回次でも一部で入試科目や日程等を変更しました。昨年まで各回次合計の応募者が少しずつ減っていましたが、今年は昨年並みで減少に歯止めがかかりました。実際の受験者数、合格者数も昨年並み、合格最低点も概ね昨年と変わらず、難度に変化は見られません。

共栄学園は特進、進学 of 2 コース制です。各回次合計の応募者数は少しずつ減少が続いていて、今年も減っています。実際の受験者数、合格者数も同傾向です。合格最低点は上がっている回次が多いのですが、不合格者が少ないこともあって、難度はあまり変わっていないようです。**実践学園**は、2月1日午後に適性検査型、2日午後に課題作文入試、5日に1科目入試を新設しました。各回次合計の応募者数は一昨年は増加していましたが、昨年は減少、今年も新設入試もあって増加しました。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は上下している回次も見られます。不合格者が多くないので、難度は昨年並みでしょう。

日本工大駒場は2月4日の入試を3日に移動して5日に新設するなどの変更がありました。1科目選択や英語選択、自己アピール型などの多彩な入試を設定したことが受験生に支持されて、各回次合計の応募者数は一昨年からの増加が続き、今年も増えました。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、合格最低点は

昨年並みで難度は変化していません。**上野学園**はアドヴァンストとプログレスの2コース制で大学受験体制に結びつくコース制ですが、音楽専攻も選択できる学校です。今年も2月6日に入試を追加したほか、4日に1科目選択入試を新設するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年は微増、昨年は減っていましたが、今年は大きく増えています。2月1日午前が1.8倍近い増加で、志望順位が高い受験生が増えています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は一部上下が目立ちますが、不合格者が少ないことから、難度はあまり変わっていないようです。

駿台学園は特選・総合の2コース制です。隔年現象で応募者が増減してきていて、一昨年は小規模な入試から脱していましたが、昨年は再び小規模、今年も順番通り増加して小規模を脱しました。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、難度に変化はなかったようです。**国土館**は2月3日、5日の入試の応募者が減って、今年も小規模な入試になっています。難度もあまり変わっていません。**成立学園**は逆に今年は応募者が増えていますが、小規模な入試が続いています。**新渡戸文化**は今年入試を追加、**武蔵野**は活動型のアクティブ入試を新設、**東京立正**は英語選択を新設、**貞静学園**は1科目入試を増やし、**目黒学院**も、2月1日午前で1科選択、4日午後で2科選択を実施しましたが今年も小規模な入試でした。なお、**修徳**、**松蔭**、**東邦音大東邦**、**高校を併設してない清明学園**は本稿執筆段階では入試結果未公表でした。

● 東京23区 難易度別グルーピング ●

2 ページのグラフは、各校の代表的な今春の入試に向けての直前予測における難易度(今春の受験生が志望校決定の参考にしたと思われる難易度、結果偏差値ではありません)をもとに、東京23区私国立中を次のようにグルーピングして作成しました。公立一貫校は合否分布の幅が広いので、ここでは外しています。また、特待入試等では特待生合格を前提とした難易度です。なお、このグルーピングは学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…麻布・海城・開成・駒場東邦・筑波大駒場・武蔵・早稲田・早大学院・桜蔭・鷗友学園・女子学院・白百合学園
 ・豊島岡女子・雙葉・慶應義塾中等部・渋谷教育学園渋谷・筑波大附属・広尾学園(医進サイエンス・インター)
- B…学習院・暁星・攻玉社・芝・城北・巣鴨・成城・世田谷学園・高輪・東京都市大附属・本郷・明大中野・立教池袋
 ・大妻・学習院女子・共立女子・品川女子学院・頌栄女子学院・東京女学館・東洋英和・富士見・普連土学園
 ・立教女学院・青山学院・お茶の水女子大(女子)・開智日本橋(GLC・特待)・国学院久我山(男女 ST)・淑徳(東大)
 ・東京学芸大国際・東京学芸大世田谷・東京都市大等々力(S 特選)・東京農大第一・広尾学園(本科)
 ・三田国際学園(メディカルテクノロジーサイエンス)
- C…足立学園(特奨)・佼成学園(特奨)・芝浦工業大附属・獨協・江戸川女子・大妻中野・恵泉女学園・光塩女子学院
 ・香蘭女学校・聖心女子(帰国のみ)・田園調布学園・山脇学園・お茶の水女子大(男子)・開智日本橋((DLC・LC)
 ・かえつ有明・国学院久我山(男女一般)・淑徳(スーパー特進)・順天・成城学園・青稜・東京学芸大竹早・東大附属
 ・東京都市大等々力(特選)・日大第二・宝仙学園理数インター(特待)・三田国際学園(インター・本科)・安田学園
- D…足立学園(一般)・京華(特選)・佼成学園(一般)・聖学院(特待アドバンス)・日大豊山・跡見学園・麴町学園女子(特待)
 ・佼成学園女子(特奨)・実践女子学園・十文字・昭和女子大昭和・女子聖学院・女子美術大付・玉川聖学院
 ・東京家政大附属(特奨)・トキワ松学園(特待)・中村(特待)・日大豊山女子・三輪田学園・目黒星美
 ・和洋九段女子(グローバル)・郁文館(特奨・特選)・共栄学園(特待特進)・駒込(国際先進)・淑徳巣鴨
 ・多摩大目黒(特待特進)・東海大高輪台・東洋大京北・東京成徳大・日大第一・文化学園大杉並・文教大附属
 ・宝仙学園理数インター(一般)・目黒日大・目白研心・八雲学園・立正大立正(特待)
- E…京華(一般)・聖学院(一般)・日本学園・愛国・小野学園・川村・神田女学園・北豊島・国本女子・京華女子
 ・麴町学園女子(一般)・佼成学園女子(一般)・駒込(AGS)・淑徳SC・成女学園・聖ドミニコ学園・星美学園
 ・滝野川女子学園・東京家政学院・東京家政大附属(一般)・東京女子学院・東京女子学園・トキワ松学園(一般)
 ・中村(一般)・富士見丘・文京学院大女子・和洋九段女子(本科)・郁文館(進学)・上野学園・共栄学園(進学)・国土館
 ・桜丘・実践学園・修徳・松蔭・城西大附属城西・駿台学園・清明学園・成立学園・多摩大目黒(進学)・帝京大帝京
 ・貞静学園・東京立正・東邦音大東邦・新渡戸文化・日本工業大駒場・武蔵野・目黒学院・立正大立正(一般)